

「偽教師についての警告」

2019年07月19日

ユダの手紙 8節～16節 しかし、同じようにこの夢想家たちも、身を汚し、権威を認めようとはせず、栄光ある者たちをあざけるのです。大天使ミカエルは、モーセの遺体のことで悪魔と言い争ったとき、あえてののしって相手を裁こうとはせず、「主がお前を懲らしめてくださるように」と言いました。この夢想家たちは、知らないことをののしり、分別のない動物のように、本能的に知っている事柄によって自滅します。不幸な者たちです。彼らは「カインの道」をたどり、金もうけのために「バラムの迷い」に陥り、「コラの反逆」によって滅んでしまうのです。こういう者たちは、厚かましく食事に割り込み、わが身を養い、あなたがたの親ぼくの食事を汚すしみ、風に追われて雨を降らさぬ雲、実らず根こぎにされて枯れ果ててしまった晩秋の木、わが身の恥を泡に吹き出す海の荒波、永遠に暗闇が待ちもうける迷い星です。アダムから数えて七代目に当たるエノクも、彼らについてこう預言しました。「見よ、主は数知れない聖なる者たちを引き連れて来られる。それは、すべての人を裁くため、また不信心な生き方をした者たちのすべての不信心な行い、および、不信心な罪人が主に対して口にしたすべての暴言について皆を責めるためである。」こういう者たちは、自分の運命について不平不満を鳴らし、欲望のままにふるまい、大言壮語し、利益のために人にこびへつらいます。

「著者」は、天使も含め、ソドム、ゴモラの人々のように、淫らな行い、不自然な肉の欲を求めた、性的に乱れた者たちは永遠の火の刑罰を受けると、裁きを語った。続いて、ひそかに紛れ込んできた不信心な夢想家たちも身を汚し、権威を認めようとはせず、栄光ある者たちを嘲ったと言う。夢想家とは偽教師を指している。彼らは、権威ある天使の存在を否定する立場に立っていた。ユダヤ教の伝説によれば、大天使ミカエルはモーセを埋葬する時、エジプト人を殺害したモーセの罪のゆえに、モーセの遺体の引き渡しを求める悪魔と言い争った。ミカエルは、相手を罵るような言葉を発せず、神に裁きを委ねた。悪魔は天使の権威を認めないため、主の懲らしめを受けた。天使の権威を認めない者は裁かれるという譬えである。夢想家たちは知らないことを罵り、分別のない動物のように、本能だけで生き、自滅していく不幸な者たちである。彼らは、弟アベルを殺したカインの罪の道を辿り、金儲けのためにバラクにすり寄ったバラムのように迷い、また、モーセと兄アロンの権威に反逆して、神に滅ぼされたコラと同じであると弾劾している。

偽教師たちは、「厚かましく食事に割り込み、わが身を養い、あなたがたの親ぼくの食事を汚すしみ、風に追われて雨を降らさぬ雲、実らず根こぎにされて枯れ果ててしまった晩秋の木、わが身の恥を泡に吹き出す海の荒波、永遠に暗闇が待ちもうける迷い星」である。教会の親睦の食事会に割り込み、自分の身を楽しませ、食事会を汚すしみである。「暗雲」「実のならない樹木」「潮の泡」「流れ星」等は、何の役にも立たないという比喩である。アダムから数えて七代目に当たるエノクも、偽教師について、「見よ、主は数知れない聖なる者たちを引き連れて来られる。それは、すべての人を裁くため、また不信心な生き方をした者たちのすべての不信心な行い、および、不信心な罪人が主に対して口にしたすべての暴言について皆を責めるためである」と預言した。外典からの引用で、神が全ての人を裁く時、不信心な罪人たちを裁き、大勢の天使たちと共に攻め立てると言っている。彼らは自分の運命について不平不満を漏らし、欲望のままに振る舞い、大言壮語し、利益のために人に媚びへつらう。これらの偽教師たちを警戒するように諭している。